

## 平成18年4月の解説（週間天気予報）

### 【4月の天候状況】

月を通して低気圧が日本付近を通過することが多く、全国的に雨や曇りの日が多くなりました。特に中旬の前半には、動きの遅い低気圧の影響により全国的に曇りや雨の日が続きました。

月を通しての日照時間は、全国的に平年より少なく北日本では平年の60%を下回った観測地点もありました。降水量は平年に比べて東日本で少なく、北日本と西日本では多くなり、北海道、九州、四国地方では平年の170%を上回った観測地点がありました。気温は全国的に平年より低く、特に北日本では平年より2℃以上低くなった観測地点もありました。

### 【4月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年<sup>（注）</sup>より2ポイント高い70%でした。例年と比べて北陸、沖縄地方では4ポイント低くなりましたが、北海道、近畿、九州北部、九州南部地方では4ポイントから8ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.1℃小さい2.8℃で、例年と比べて九州北部では0.6℃、九州南部では0.5℃大きくなりましたが、北海道地方では0.8℃、東北地方では0.4℃小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.3℃小さい2.1℃で、特に北海道、関東甲信、東海、近畿地方では0.4℃から0.5℃小さくなりました。（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【4月の週間天気予報から】

11日から12日にかけて日本付近を低気圧が通過して全国的に広い範囲で雨が降りました。東京地方の週間天気予報では、11日については7日前（4日発表）から雨が降る予報をしていましたが、12日については7日前（5日発表）から3日前（9日発表）まで雨は降らない予報をしていました（表）。

これは、低気圧に伴う雨雲は11日に日本付近を通過して12日には日本の東海上に進むため東京地方ではまとまった雨は降らないと予想したためです。ただし、数日以上先の予想では低気圧が通過する時

|       | 予報発表日 |  |   |   |   |   |   |   | 東京の<br>日中の<br>天気  |     |
|-------|-------|--|---|---|---|---|---|---|---|-----|
|       | 4日    | 5日   | 6日  | 7日  | 8日  | 9日  | 10日   | 11日   |   |     |
| 予報対象日 | 11日   |  50% |  50% |  50% |  60% |  60% |  60% |      |  | 11日 |
|       | 12日   |      |  30% |  40% |  40% |  40% |  40% |  70% |  | 12日 |

表 2006年4月11日～12日の予報（天気と降水確率（日））と実際の天気（東京大手町の例）  
表の見方：左上端のマークは5日に発表した、11日の天気予報が「曇り一時雨」だったことを示しています。マーク下の数字は1日を対象とした降水確率です。

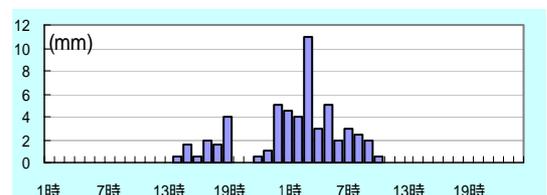


図 東京の毎時間降水量 (2006年4月11日～12日)

期がずれる可能性もあったため、12日の降水確率は雨の表現がない（傘マークがない）予報としては最も高い40%と発表していました。

東京地方の実際の天気は11日の午後から12日の午前中にかけてほぼ全域で雨が降りました。都心（大手町）でも、11日の午後から雨となって12日の午前中まで降り続き、雨のピークは12日の朝でした（図）。

降水確率予報は傘マークや「雨」という言葉では表せない内容を含んでいます。週間天気予報の利用にあたっては予報文や天気マークだけではなく、降水確率予報も判断材料に利用して下さい。

【6月の週間天気予報の利用にあたって】

6月にはそれまで日本の南海上に停滞していた梅雨前線が次第に北上して本州付近に停滞することが多くなり本州付近では例年6月半ば頃までに各地で梅雨に入ります。一方、南西諸島では6月下旬に梅雨が明けます。梅雨前線が停滞すると曇りや雨の日が続き、時には大雨となって土砂崩れや河川の氾濫などの災害を引き起こします。また梅雨前線の北側にあたる地方ではオホーツク海高気圧から吹き出す冷たい北東の風の影響で、太平洋側の地方を中心に低い雲に覆われて曇り、気温が低くなります。このような状態が長期間続くと、低温や日照不足によって農作物の生育不良などが起こり、冷害となることもあります。

2002年の6月は関東甲信地方では11日ごろに梅雨入りした後、気温も下がって曇りや雨の日が続きました。梅雨のない北海道でもオホーツク海高気圧の影響で気温が下がり、下旬には北海道各地で霜による被害が発生しました。沖縄地方は21日ごろ梅雨明けして、下旬は太平洋高気圧に覆われて晴れる日が続き日平均気温も30近い日が続きました。

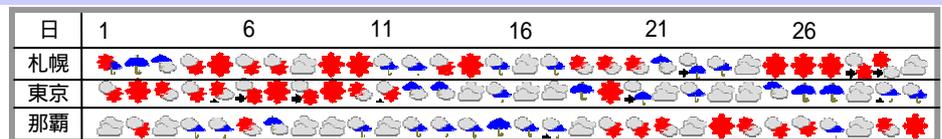
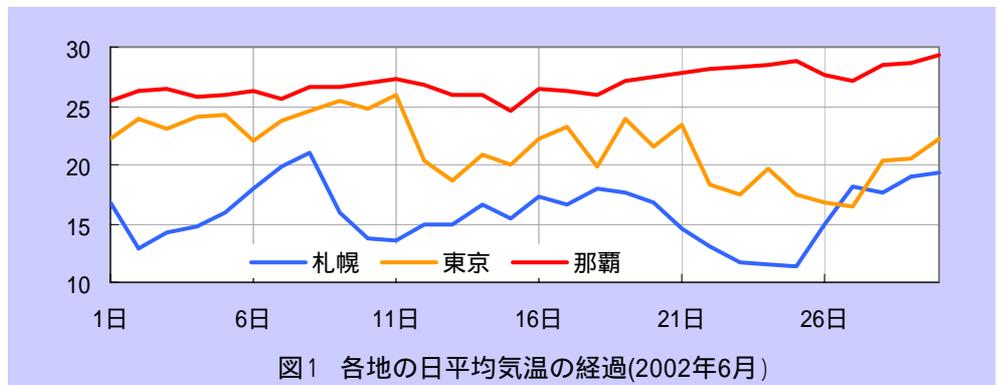


図2 各地の日中の天気経過 (2002年6月)

梅雨前線の位置が南北に変動することで、各地の天気や気温は大きく変わります。週間天気予報から向こう1週間の天気や気温の傾向を把握して農作物の管理等に活用して下さい。